

三条西公条讚紫式部石山詣図幅について

杉本 まゆ子

群書類従にも収められている『源氏物語竟宴記』は九条植通が源氏物語を全巻読了した竟宴の記録である。その文中に以下のような文章がある。今、群書類従によつて記してみる。

石山寺を図して。紫式部此趣向を思ひめぐらすかたち。則如意輪観音の尊像を觀じて。絵所土佐將監に図さしむ。其讚云。紫式部者。越前守為時女也。侯上東門院焉。古伝云。上東門院令式部作源氏物語。詣石山寺祈之。于時八月十五夜也。遙見湖水之月。趣向忽然生。則須磨明石両卷書之。帰京録之。終一部功云々。

爰九条入道傳陸殿下。耽翫此物語年久矣。予亦至七旬余之類齡。猶手之不廢。似元凱之癖。頃詣殿下讀申之。殿下不獲止。命題尽。工図之。維時永祿三仲冬五日。仍覺

あけうばふ色はあやしな咲藤のさかへ久しき宿にうつして

先般、稿者はこの『源氏物語竟宴記』を含む九条家の源氏物語享受に関する論文を記した。その際、この紫式部像について「書陵部には九条本が多く入ったがこの土佐光茂画紫式部像は確認できない」と注記してしまった。しかし、それは誤りで、次ページ

に写真を掲げた通り、三〇年以上前に公開された品に該当するものがあつたので、お詫びして紹介する次第である。

*

当該画幅の書名は「紫式部石山詣図幅」、函架番号は九一一〇一九、本紙は豎八五・四糎、横四八・二糎。箱入りで、蓋に「紫式部詣石山寺録源氏物語図土佐左近將監光元筆」と記す。書陵部の整理では伝土佐光元画、讚三条西公条筆とする。付属品の中に、「右土佐左近衛將監光元筆／尤無疑濫者也仍如件」とする寛政元年（一七八九）閏六月の土佐光貞極状あり。九条家旧蔵。

光元は土佐光茂の男。伊井春樹氏は『源氏物語竟宴記』の土佐將監を光茂とされるが、天文一〇年（一五四一）に光元が左近將監の宣旨を受けているとされることから光元が妥当とは思われる。しかし絵についてはこれ以上判断する材料を持たない。

仍覺は公条の法名（天文一三年出家）。筆跡については、三条西家の実隆―公条―実枝の三代はよく似ているが、仍覺の署名、および小字で「予」と書く態度からも公条の自筆としてよからう。

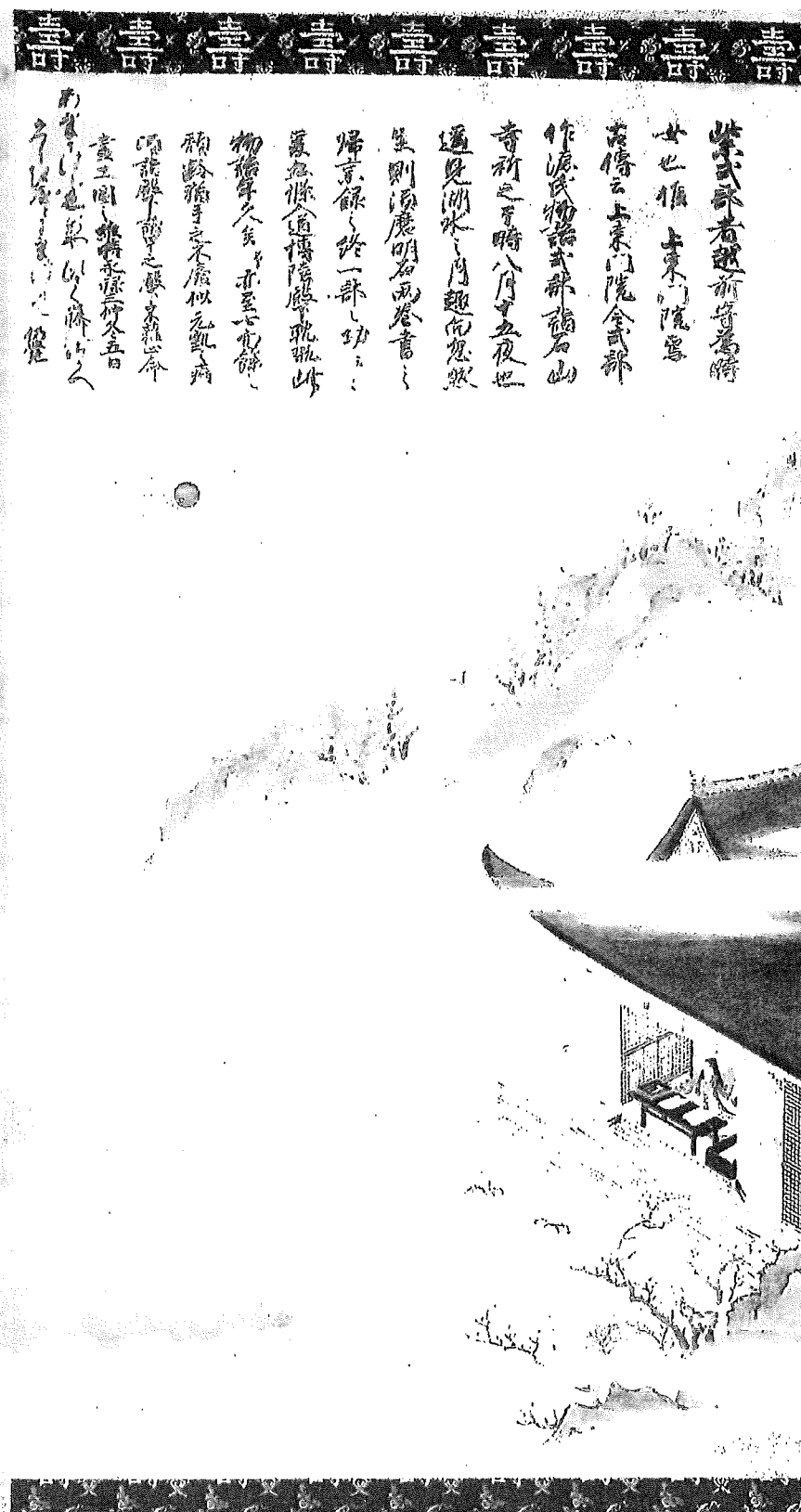
*

『源氏物語竟宴記』に関する研究は、管見の範囲では伊井氏の御論稿があるのみである。この図幅の紹介によつて、日本絵画からのアプローチ等が増えていけば幸いである。

（注）

* 第十七輯（続群書類従完成会 一九九三年 訂正三版）

心 「九条幸家と源氏物語―源氏切紙と幻の絵巻―」（『国文目白』



宮内庁書陵部蔵 紫式部石山詣図幅 (九一 1019)